

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



鈴木 裕美 (すすき ひろみ)

みなさん、こんにちは。前回、男女の脳についてお話ししました。女はおしゃべりでストレス発散すると書きましたが、私も昔から友人や家族相手によくしゃべっています。人と話すときは上手に聴くことを心がけようと思うのですが、難しいですね。アナウンススクールでインタビュー実習をしたのですが、インタビューするように話を聴くのがコツのようです。「もっと話したくなる相づち」や「発見や気づきを促す質問」ができれば、思春期の口が重い子どもとも楽しく話せるのかもしれないね。自分はインタビューアーだと思えば、上手に話が聴けるようになるかな？

今回は、600万年引き継がれた遺伝子が思春期に及ぼす影響を考えます

男女の脳から
思春期を考える②

思春期の男の子は親とべちゃくちゃ話すことはないし、悩みがあれば一人になりたい

と思うので、親に根掘り葉掘り聞かれるのは「ウザい！」と感じます。元々自分の感情

を言語化するのが不得意ですから、「ちゃんと言いなさい」と言われるのも「ウザい！」です。ほとんどの場合議論することなく、(悪態をつい

て)場を離れてしまいますから、親としては何を考えているのかわからない

でしょう。反対に女の子は共感性が高くおしゃべりなので、**悩みがあるとすぐ親しい**

人に打ち明け、慰めや支えを求めます。思春期は悩みを打ち明ける相手が母親から友人に代わり、秘密を共有することで親しさのバロメーターにします。大脳皮質が発

達しているため、気持ちや考えを言葉にするのも得意で、親の言葉に言い

返したり、理屈でやり込めようとしたりすることもあります。女同士、

感情的になって決裂してしまうと、**関係を修復することが難しくなります。**

男の子は同性同士でよくけんかもします(女の20倍)が、すぐ仲直りもします。女は滅多にけんかはしないけれど、一旦仲違いすると友達に戻ることは難しいのです。だから極力けんかしないように察したり、気を遣ったり、愛想よく振る舞ったりします。けんかして群れから離れることは、女にとって子どもを危機にさらす死活問題だったわけで、学校生活でもある意味同じです。いじめなどで孤立することは学校が世界のすべてである子どもにとっては、想像

子どもたちの行動は、「思春期」というくりでも説明できますが、600万年の人類の歴史からも説明することができます。目の前の子どもの言動に腹を立てたり、困惑したりするだけでなく、大昔の人類に思いを馳せ、何百万年も脈々と受け継がれる遺伝子に感心するのも一興ではないでしょうか。

今の時代には不利な遺伝子にもどうか温かなまなざしを！